

花王 TNFD レポート

事業活動と自然の接点を理解し、リスクや機会、将来的な財務影響を見積もることは、ネイチャーポジティブに向けた戦略を立案し、活動を推進するうえでとても重要なことです。花王の主要製品である洗剤を例に、サプライチェーン全体にわたっての自社事業活動と自然との接点を明らかにし、リスクと機会を抽出、自社への影響と自然・社会・ステークホルダーへの影響のダブルマテリアリティで整理しました。さらにシナリオ分析により、2050年に予想される自社への財務影響を見積もるとともに対応策を検討しました。ここでは、これらの結果をTNFDのフレームワークに沿って整理しています。

洗剤に関する LEAP 分析

花王は、「ハイジーン&リビングケア」「ヘルス&ビューティケア」「ライフケア」「化粧品」の4つの事業分野で、生活者に向けたコンシューマープロダクツ事業を展開しています。また、「ケミカル」事業においては、産業界のニーズにきめ細かく対応した製品を幅広く展開しています。洗剤は複数の事業領域にわたる花王の主要製品です。本レポートにおいては、洗剤に関する分析結果を公表しています。現在、洗剤以外の製品についても同様の分析を進めています。

LEAP 分析

〈Locate〉

ENCOREから抽出された課題に対して、顕在的および潜在的リスクを追加調査し、各種GISデータを用いて解析を行いました。その結果、ホットスポットとして、パーム（核）油の原産国（インドネシアやマレーシア）、水ストレスや水質汚染を抱える地域にある拠点及び販売国が挙がってきました。

〈Evaluate〉

バリューチェーンの上流、直接操業、下流において、自然に関する依存と影響因子を抽出しました。これら因子を、自社事業活動への影響度の軸と、自然や社会への影響およびステークホルダーの関心度の軸の2軸で整理しました。それぞれの軸の双方とも高い（特に重要なテーマ）と評価されたテーマは以下の通りです。

- ・ 森林破壊（上流）
- ・ 水資源の利用および環境中への排出（直接及び下流）
- ・ 廃棄物の排出（主にプラスチック容器、下流）

〈Assess〉

自社事業活動、自然・社会・ステークホルダーへの影響ともに高かった4つのリスクに対して、「自然共生シナリオ」と「成り行きシナリオ」を立てて、2050年に予想される財務インパクトを見積もりました。

〈Prepare〉

花王のESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」(KLP)の活動には、生物多様性との関連の強いテーマがたくさんあり、ミティゲーションヒエラルキー（回避、最小化、現場での機能回復/復元）に従い、生物多様性の損失を減らし、回復させることにチャレンジしています。想定されたリスク要因に対して、現在進行中の取り組みを推進していくことで、負の財務インパクトを回避、縮小できる可能性があることが確認できました。また、新たなビジネス機会の例として、土壌改質技術などの「再生農業」分野での展開の可能性が考えられます。

TNFD フレームワークに沿った開示

ガバナンス

生物多様性に関する重要テーマについては、社長執行役員を議長とするESG最高機関であるESGコミティで報告や意思決定を行っています。ESGコミティでは、生物多様性に関わる各種方針の承認や、自然関連の依存・影響、リスクの機会についての報告、シナリオ分析による事業活動への影響報告や将来にわたる活動の方向付けを行っています。役員クラスがオーナーである4つのESGステアリングコミティ（脱炭素、プラスチック包装容器、人権・DE&I、化学物質管理）においても生物多様性に関連するテーマが議論されています。より具体的な活動はESG部門が主管し、関連部署と連携しながら進めています。また、花王ではサプライチェーン全体において生物多様性戦略の実行にあたり、日々の業務や意思決定のガイドラインとして次の方針を策定しています。

- **生物多様性の基本方針**：自然と共生する未来の実現をめざした、生物多様性を保全・回復させ、自然を再生へと導くための8つの活動方針を規定

- **生物多様性の行動指針**：基本方針に則り、より具体的なアクションを示したもの。生物多様性の国際的な情報開示や目標設定に対する姿勢を提示
- **花王人権方針**：企業活動全体において人権尊重の責任を果たす努力をしていくことを宣言
- **調達基本方針**：人権に配慮した購買行動を行い、社会的責任を果たすことを表明
- **花王サステナブル商品開発方針**：本質研究に基づく技術で、地球環境、生物多様性、人権への影響を真に最小化しながら、多様な顧客・社会・未来に向けて価値を最大化すると表明

- ・ 生物多様性の基本方針 <https://www.kao.com/jp/sustainability/nature/biodiversity/policy/>
- ・ 生物多様性の行動指針 <https://www.kao.com/jp/sustainability/nature/biodiversity/action-policy/>
- ・ 花王人権方針 <https://www.kao.com/jp/sustainability/walking-the-right-path/humanrights/humanrights-policy/>
- ・ 調達基本方針 <https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/procurement-policy/>
- ・ 花王サステナブル商品開発方針 <https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/product-development-policy/>

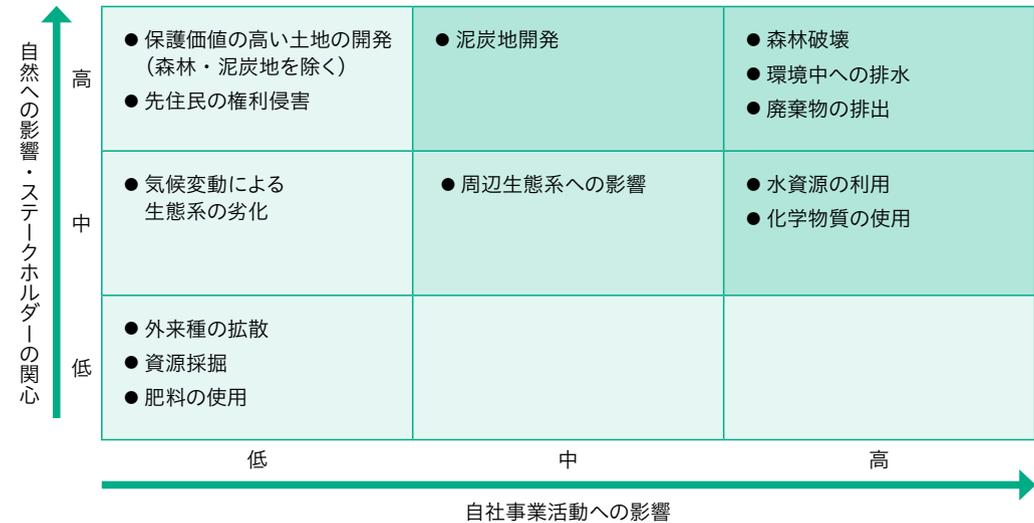
戦略

企業理念「花王ウェイ」に示すように、花王のパーパスは『豊かな共生世界の実現』です。これはまさしく自然との共生を示したものです。花王は、生物多様性に関連するKLPの推進を通じて、ネイチャーポジティブの実現をめざしています。KLPの中で、生物多様性に関連の深いテーマは、「責任ある原材料調達」、「脱炭素」、「ごみゼロ」、「水保全」、「大気及び水質汚濁防止」、「責任ある化学物質管理」、「人権の尊重」等が挙げられます。

花王ウェイ（企業理念）
<https://www.kao.com/jp/corporate/purpose/kaoway/>

従来から行われてきた活動を再整理し、また、戦略をより強固なものとするために、TNFDのLEAP分析に則り、バリューチェーンの上流、直接操業、下流において、自然に関する依存と影響因子を抽出しました。得られた結果に対して、自社事業活動への影響と、自然・社会・ステークホルダーへの影響の2軸で整理を行いました。分析にはENCOREやGISデータ、公表されているフレームワークやガイドライン、レポート、事例調査等を活用しました。

生物多様性に関するマテリアリティの例（縦軸と横軸は相対的なもの）



特に重要度の高いテーマは下記の通りです。

「森林破壊」：人口増加や経済と花王のビジネス伸長により、パーム油や紙・パルプの需要が増加する中で、森林破壊を伴う新たな開発をせずに原材料を確保するための活動が求められます。

「環境中への排出」：製品使用後に家庭から排出される生活排水中に含まれる物質の量や種類によっては、環境や生態系への影響が懸念されます。

「水資源の利用」：生産拠点における過度な水の利用は、周辺地域あるいは流域の生態系へ影響を与えるおそれがあります。製品の「使用場面」における水不足は、生活者の日常生活に影響を及ぼす可能性があります。

廃棄物の排出（主にプラスチック容器）：使用後の容器の不適切な処理によるプラスチック汚染の増加が懸念されます。

これらの項目に対し、「自然共生シナリオ」と「成り行きシナリオ」を立て、想定されるリスクに対する2050年の財務インパクトを見積もりました。「自然共生シナリオ」は、世界や花王がめざす姿であり、大きな社会変革が必要になるものの自然と経済が両立する世界です。質とともに環境に配慮した製品やサービスに集約され、サプライチェーンの集中化が進む世界観を描きました。この世界では、気候・生態系共に回復し、自然保護関係の規制等が厳格化、必要な技術革新が進むシナリオを立てています。また、生活者が環境に配慮した製品を選ぶようになります。一方、「成り行きシナリオ」では、現在のやり方が踏襲され、このまま自然の劣化が進んでしまう世界です。自国優先で自然環境が劣化しても政治や規制の介入が限定的であり、生活者の環境意識はあまり向上せず、価格重視の大量消費の購買行動が続くと想定しています。

事業インパクトを見積もるために、リスク顕在化の経路を立て、見積もりに必要なパラメーターが収集できたものに対して事業インパクトを見積もりました。なお、自然関係のパラメーターは時間軸をそろえた収集が困難ですが、2050年の予測データがあるものに関しては、2050年時の値にそろえて見積もりを行いました。

2050年財務インパクト予想と花王の対応状況

マテリアリティ	リスク要因と財務インパクト (単位: 億円)			対応例と効果 (単位: 億円)			
	リスク要因	自然共生シナリオ	成り行きシナリオ	花王の対応状況	自然共生シナリオ	成り行きシナリオ	
リスク	森林破壊	パーム油の調達コストの上昇	-475	-416	・省資源高付加価値処方化 ・代替原料開発 ・小規模農園支援 (SMILE、収量アップ)	現時点 算定困難	現時点 算定困難
		木材パルプの調達コストの上昇	-13	-11	省資源高付加価値処方化	現時点 算定困難	現時点 算定困難
		EUDR違反による課徴金の支払	-620	-64	RSPO認証品の購入費用	-400*	-400*
					トレーサビリティ確保費用 (森林フットプリント等)	-10*	-10*
		上記諸対応による課徴金回避	+620	+64			
	不買運動による売上減少	-57	—	トレーサビリティ確保 (森林フットプリント実施)	+57	—	
	水資源の使用	操業停止期間中の売り上げ減少額	-44	-84	節水型製造技術の開発	現時点 算定困難	現時点 算定困難
		水道料金の上昇	—	-6	・水使用量の削減 ・水のリサイクルやカスケード利用	—	+2
	環境水中への排水	賠償金の発生	-13	—	法令より厳しい基準での排水管理	現時点 算定困難	現時点 算定困難
	プラスチック汚染	プラスチック容器の調達コストの上昇	-2	-54	リデュースイノベーション、詰め替え	現時点 算定困難	現時点 算定困難
プラスチック課税		-115	—	リサイクルイノベーション ・再生プラスチック導入 ・水平リサイクルの実用化	+104	—	
不買運動による売上減少		-57	—		+57	—	
機会	再生農業 2030年グローバル市場規模 105兆円 ※7,000億ドル、@150円/\$換算 出典: WEF『The Future Of Nature And Business』			・高濡れ技術による製品研究開発 > スマート農業等 ・土壌物理制御技術による製品研究開発 > 土壌改良剤、バイオスティミュラント等			

※対応費用

財務インパクトが大きいものとしては、シナリオによらずパーム油・パーム核油価格の変動が想定されました。一方で、自然共生シナリオにおいてのみ、EUDR規制への対応が不十分であった場合に発生する課徴金 (EUDR規制に準ずる規制がグローバルに広がるケースを想定) やプラスチック容器課税が挙がってきました。

これらの財務インパクトは、花王が適切な対応を取ることで縮小ないし回避可能なものです。花王は優先するテーマおよび地域から活動を進めています。例えば、パーム農園までのトレーサビリティの確認を進めるとともに、衛星を使った森林フットプリントの評価を進めることで森林破壊ゼロ達成を実現するとともに、EUDR規則に対応していきます。パームに頼らない代替原材料への転換や省資源化設計の推進により、原料価格の上昇や認証に伴うコスト負担の縮小を図っていきます。プラスチックに関するリデュースイノベーションとリサイクルイノベーションにより、プラスチックに関する財務インパクトも最小化できると見ています。これらリスク対応の活動の成果はそのまま市場における競争力向上やビジネス機会の拡大、利益増大につながる可能性があると考えています。

リスクとインパクトの管理

1. バリューチェーンにおける生物多様性への依存と影響、並びにリスクと機会の把握

花王は、洗浄剤を例にとってTNFDが推奨するLEAP分析の手法に則り、事業と自然との接点を特定し、バリューチェーンにおける生物多様性への依存と影響、並びにリスクと機会を把握しています。

2. ミティゲーションヒエラルキー（回避、最小化、現場での機能回復／復元）に従った活動

花王は、KLPの推進を通じて、生物多様性の損失を減らし回復させることにチャレンジしています。

- ・脱炭素 <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-21.pdf>
- ・ごみゼロ <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-22.pdf>
- ・水保全 <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-23.pdf>
- ・大気および水質汚染防止 <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-24.pdf>
- ・責任ある化学物質管理 <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-33.pdf>
- ・責任ある原材料調達 <https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sustainability2025-20.pdf>

3. 拠点および周辺地域における生物多様性の保全と回復活動

花王グループの各拠点では、国や地域の特性に合わせた生物多様性の保全や回復をめざす活動を推進しています。また、生物多様性に関するイベントの開催や外部プログラムへの参加を通して、社員が生物多様性に対する理解を深める機会を提供しています。

- 各拠点での生物多様性保全・回復活動 <https://www.kao.com/jp/sustainability/nature/biodiversity/activities/>

4. ネイチャーポジティブに資する技術開発とビジネスの創出

ネイチャーポジティブに向けたビジネス機会として、市場ポテンシャル、競争環境、自社事業とのシナジーといった点から、候補となる分野を調査しました。例えば、再生農業に代表される生物多様性配慮型の農業は、市場ポテンシャルも大きく、花王の有するアグロ関連技術・ビジネスが生かせる可能性がある分野のひとつです。その他、BtoC企業として「地球にやさしい消費」、「循環型・資源効率型モデルの構築」などが挙げられました。

測定指標とターゲット

LEAP分析で特定したマテリアリティに対して、下記の指標を用いて活動を行っています。

● 森林破壊ゼロに向けた取り組み

花王は、2025年までの森林破壊ゼロ達成をめざして、様々な活動を行っています。TNFDによるコア開示指標では、高リスクコモディティの量とその認証品の量の開示が奨励されています。これまで花王は、責任ある原料調達のKPIとして、2025年RSPO認証油の100%購入を目標に管理してきました。2024年12月期の認証油の購入量（Book & Claimを含む）は20万トン、認証比率39%でした。その他のコア開示指標（管理している土地の面積や各種土地利用面積の変化）に関しては、農家までのトレーサビリティの確保を進めるとともに、衛星を使った森林フットプリント分析を始めており（インドネシアのリアウ州を対象に実施済み）、将来的には定量的な数値として把握することが可能になると考えています。持続可能なパーム油調達に向けた花王の活動については、パームダッシュボードを参照ください。

- パームダッシュボード <https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/palm-dashboard/>

● 水資源の利用と環境中への排水

TNFDでは、「排水（排水汚染）」に関わる開示指標として、「環境中への排水量」や「排水中の主要汚染物質の濃度」の開示が推奨されています。花王では各拠点における「環境中への排水」管理として、法令に定められた規制値よりも厳しい管理基準を設けています。2024年の全生産拠点の漏出件数は0件でした。KLP「水保全」では、花王グループの全拠点を対象に、2030年までに製品ライフサイクル全体で2017年比10%削減（売上原単位）を目標として活動を進めています。なお、TNFDでは地域性を加味した目標設定が推奨されています。花王は、これまでの分析から、水資源の利用の観点から重要となる、湧水地域にある拠点（直接操業）の特定を終えています。そして、花王は各拠点での取水量データを蓄積しており、現在は、各製造の特性に応じた水管理目標（取水関連）を設定中で、2026年に公表する計画です。

● 廃棄物の排出（主にプラスチック容器）

TNFDではプラスチック包装材の使用量と再生樹脂使用量を指標としています。KLP「ごみゼロ」のロードマップでは、2030年に包装容器で使用したプラスチック総量をピークアウトさせ、使用量の50%以上を再資源化する、2040年までに「ごみゼロ（花王のプラスチック包装容器使用量と、花王がプラスチック再資源化に関与した量が等しい状態）」、2050年までに「ごみネガティブ（花王のプラスチック包装容器使用量よりも、花王がプラスチック再資源化に関与した量が上回る状態）」をめざしています。2024年のプラスチック包装材の使用量は86千トン、再生プラスチック使用量は6.4千トンでした。